

## 秋冬野菜栽培講習★



JA筑紫は、7月25日から28日の4日間に、大野城・太宰府・筑紫野・那珂川地区で「ゆめ畑野菜栽培講習会」を行いました。

講習会では、JA営農生活部農業振興課の神崎光成さんが講師を務め、気象状況や農作物の現状の他、今後の管理について説明を行いました。また、2種類以上の作物を一緒に栽培する混植（混作）や、自然農業などについて講習しました。神崎さんは、「出来るだけ農薬などを使用せず、安全で美味しい野菜を作って出荷しましょう。」と呼びかけました。

## ヘリ防除 シーズン前に再確認



JA筑紫無人ヘリ防除作業部会は7月25日、「無人ヘリ防除部会事前検討会」を実施。作業シーズンを前に、安全運行についての確認を行いました。

当日は、「ヤンマーヘリ&アグリ株式会社」の担当者を招き、圃場で無人ヘリの基本的な操作方法の再確認と、テストフライトを行いました。JA筑紫農産課の担当職員は「安全第一で防除作業を行って欲しい。」と話していました。

## ハチが集めた甘～い蜜★



国内の養蜂家の減少に伴って国産はちみつが希少価値を高める中、筑紫野市山家の平山英一さん(53)は、自宅裏でニホンミツバチを飼育し、はちみつを採集しています。

はちみつは、ミツバチが花の蜜を集め、巣の中で加工・貯蔵されたもの。ここ山家地区は、豊かな自然に囲まれて、蜜のもととなる野花もたくさん自生しています。

平山さんがはちみつの採集を始めたのは数年前。一年に一度、待ち焦がれて採集するはちみつは、美味しさも格別。黄金色の蜜を舐めると、甘くて優しい味が口いっぱい広がります。平山さんは「よく働いてくれるみつばちに感謝している。今後は、巣箱を増やして美味しいはちみつを多くの人に味わってもらいたい。」と期待を膨らませながら笑顔で話していました。

## 親子で食育活動



ゆめ畑は7月23日、太宰府市文化ふれあい館で「平成28年度 旬の野菜 夏休み親子クッキング」を開催。安全・安心な地元野菜を使った料理に、親子で挑戦しました。この企画は、夏休み期間の食育活動の一環として、文化ふれあい館とJAが共同で考案したものです。管内に在住する16組の親子計42人が参加しました。

調理は、JA専属フードコーディネーターの古賀美里さんが講師を務め、「お米ピザ」「簡単！夏野菜のピクルス」「みそ玉のお味噌汁」の3種類に挑戦。ゆめ畑太宰府店で販売している新鮮な食材が準備され、参加者達は会話を弾ませながら手際よく調理を進め、料理を完成させました。

## (有)三宅牧場 枝肉共励会W受賞



福岡県肉用牛生産者の会は7月19日、福岡市の福岡食肉市場(株)で「2016年度第2回福岡県肉用牛生産者の会枝肉共励会」を開き、枝肉展示と表彰式を行いました。黒毛和種の部で、JA筑紫肥育牛部会の(有)三宅牧場が、金賞とマーケットニーズ賞をW受賞しました。

今回の出品は、肉牛の黒毛和種の部52頭。交雑種の部15頭。関係者は、各枝肉の色ツヤやサシの具合などを、真剣な様子で確認しました。営農生活部農業振興課の担当者は「生産者が大切に育てた牛が受賞し、大変嬉しく思う。『博多和牛』を多くの人に食べて頂きたい。」と話しました。

## 児童がJA山家支店窓口を見学



筑紫野市立山家小学校の児童が7月15日に、JA筑紫山家支店を訪れ、窓口業務などを見学しました。2年生の授業の一環で、校区内の企業等を訪れ、どのような仕事をしているかを学ぶ目的です。児童からは「JAはどんな仕事をしていますか?」「一日に何人くらいお客さんが来ますか?」など様々な質問が挙がり、職員が説明しました。児童たちは、メモをとりながら熱心に聞きっていました。説明を行った森木和生支店長は、「授業を通して、JAに興味や関心を持ってもらえたので良かった。今後も地域の方々に、JAの活動を積極的にPRしていきたい。」と話していました。

## ローン件数に応じて、福祉基金に寄付



JA筑紫は12日、福岡市の西日本新聞会館で、西日本新聞民生事業団が運営する「ハリー&ハニー福祉基金」に寄付金を届けました。

この基金は、福祉施設の子供達などを福岡ソフトバンクホークス戦に招待することが目的。JAは趣旨に賛同し、7年間継続して教育ローンの成約件数に応じた寄付をしています。

この日届けた寄付金は、平成27年9月1日から平成28年4月28日までの「めざましごはん教育ローンキャンペーン」の成約106件分。神代敏之常務は、計10万6千円の寄付金を事業団理事・事務局長の津田祐一氏へ手渡しました。常務は「今後も子供たちのために継続して取り組んでいきたい」と笑顔で話していました。

## エコープ品、試食会で販売促進



JA筑紫女性部消費生活委員会は8日、ゆめ畑那珂川店で、女性部がオススメするエコープマーク品の試食販売会を行いました。安全安心なエコープマーク品の美味しさを、より多くの人に知ってもらおうと企画したものです。当日は、店舗の入り口付近に、試食販売コーナーを設置。5種類のエコープマーク品を使用した「夏野菜のしおふき昆布和え」や「マンゴーゼリー」などの試食を約200人分準備しました。女性部活動を広く知ってもらおうと、ピンク色の法被を着用した委員会メンバー達は、来店者に試食品をふるまい、作り方のポイントなどを説明しながら交流を楽しんでいました。

## 農薬中毒検査を実施



JA筑紫は、JA無人ヘリ防除作業部会の部会員を対象に「農薬中毒検査」を無料で実施。部会員の血液に農薬の成分が残留していないか検査し、健康状態を確認する目的です。農薬中毒にかかると、知覚・運動神経まひなどの症状が発生します。

部会は、無人ヘリ2機による米・麦・大豆の病害虫防除活動に取り組んでいます。適期防除をするために作業の効率を上げようと、オペレーター・ナビゲーター・補助員の3人1組で役割を分担。ヘルメット着用その他、農薬を散布するヘリの高さにも十分に注意を払っています。営農生活部農産課の担当者は「部会員の健康状態を確認するため、今後も継続して行っていきたい」と話していました。

## 受講スタート／JA筑紫ちくし農業塾



JA筑紫は7月6日、筑紫野市の物流センターで「第6期ちくし農業塾開講式」を開きました。第6期生は12人。塾で習得した知識や技術を活かし、JA直売所出荷者や生産部会の一員となる販売農家を目指し、約11ヶ月間に及ぶ受講期間がスタートしました。

式には、塾生や行政関係者、JA役職員など13人が参加。白水清博組合長から激励の言葉が送られ、塾生も1人1人抱負を述べました。講師を務める室園正敏さんは、「学んだ技術と知識を活かしていけるように、11カ月間しっかり頑張ってください。」と挨拶しました。

## 適正な栽培管理を確認



JA筑紫は、7月1日～15日までの8日間、管内4市1町56カ所で「平成28年度水稲中間管理講習会」を行っています。

講習会は、水稲を栽培する組合員を対象に開催。気象と生育状況を踏まえた栽培管理や、病害虫対策などの説明をJA職員が行い、適正な管理による高品質な米作りを目指します。

7月1日、筑紫野市城山・倉良々地区では、組合員とJA営農生活部職員ら13名が参加。参加者たちは、真剣な表情で資料に目を通しながら、説明に耳を傾けました。その後、圃場で生育状況を見ながら、中干しのタイミングや病害虫の発生状況を確認しました。営農生活部農産課の職員は「適正な管理を行い、高品質な米作りに努めてほしい。」と話しました。

## 利用者がおやつ作り



デイサービスセンターJA筑紫アネシスはこのほど、利用者と一緒に「おやつ作り」を行いました。年2回開催する「おやつ作り」は、利用者が楽しみにしている行事のひとつ。今回のメニューは、豆腐入りの白玉団子を使ったフルーツポンチです。利用者は、アネシス職員やJA生活福祉課職員と共に、グループごとに楽しく作業を進めていました。

利用者は「自分で作ると、一層美味しい。」と笑顔で話しました。